

あびこ市民活動ネットワーク会報

平成30年1月15日発行 第44号 発行責任者 宇野真理子 我孫子市湖北台 4-11-16

新年のご挨拶

あびこ市民活動ネットワーク代表 宇野真理子



新年おめでとうございます。 しながら壁を乗り越えていかなければならないと
今年度は地方分権一括法の第 8次改正が行われるという。 感じて
1999年の地方分権一括法の制 定で国と地方の関係は「上下・

主従」から「対等・協力」の関係に改革された。しかしまだまだ制度ありきの壁にぶつかることも多い。我孫子市も人口減少や市税収入の減少により厳しい行財政運営が求められており、新規事業に着手しにくい状況である。

だからこそ、もう一度地方分権の理念に立ち返り、市民が協力できること、行政がすべきことを洗い出し、お互いに知恵を出し合い創意工夫を

1月25日、新年会員交流会を開催

あびこ市民活動ネットワークは、1月25日に次の要領で平成30年の新年会員交流会を開きます。ふるってご参加ください。

日時：平成30年1月25日（木）14：00～16：30

場所：市民プラザ（あびこショッピングプラザ内）ホール

日程：①「わが団体の今年の抱負」－今年の予定、目標、課題、本会への要望や他の会員への呼びかけなどを
②「マジックを楽しむ」－塩畑博子さんのマジック
③「新年に歌おう」－鳥谷部由美子さんのピアノで、我孫子市ゆかりの歌、懐かしのメロディ、童謡など

会費：無料

申し込み：事務局まで（メール；abikonetwork@gmail.com
電話；080-9293-5269）

の唯一のネットワーク組織として、原点に立ち返りもう一度活動を見直したいと考えている。1月25日に開催予定の新年会員交流会で皆様のお考えやお声を聞か

せていただければと思っています。本年もどうぞよろしくお願い致します。



我孫子市長 星野順一郎

新年明けましておめでとうございます。

市民活動団体みなさまには、日頃から我孫子のまちづくりに深く関わっていただき、厚く感謝申し上げます。

また、昨年9月に開催された日本女子オープンゴルフ選手権をはじめ、市で行われるイベントや施策等にご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

現在、市では、地域コミュニティの活性化や防災

体制の強化、我孫子の魅力発信など、さまざまな施策を推進しています。

しかし、少子高齢化が進み、多様化した地域課題の解決のためには、市民活動団体の皆様との協働が重要と考えております。今まで以上に市民の方が住みやすい街となるよう皆さまのお力添えをいただければ幸いです。

本年も、市民活動団体の皆様が益々活躍されることを期待するとともに、我孫子のまちがより一層、魅力あるものとなることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

星野市長との懇談会を開催

子どもの学習支援、新しい総合事業などで懇談

本会は、昨年12月22日（木）午後2時から、我孫子市役所分館第1会議室で、星野順一郎市長との市政懇談会を開催した。懇談会には本会側から約40人、市側からは星野市長のほか関係部門関係者が出席、宇野本会代表の司会で懇談を進めた。

冒頭、星野市長から市の平成30年度の予算編成について、「社会保障関連費などの増加が進む一方で、市税収

入は減少傾向が続いており、新規事業のためには、既存事業を切らざるを得ない厳しい編成を進めている」という説明があった。

次いで、生活困窮家庭の子どものための学習支援について、本会の関係団体あびこプラス・ワン、すずらんの会から現状や課題について説明、星野市長、担当の社会福祉課担当者との今後の拡充などについ

て意見交換した。その中で「現在56名くらいの子どもが参加しているためスタッフが足りない」との実情説明に対して、市側から「市もスタッフの充足は急務だと考えており、川村女子大等に協力をお願いしている。今後はけやきプラザの11階にこだわ

らず広い場所の確保も検討していきたい」との話があった。

最後に、医療、介護制度の改正に伴う「新しい総合事業」に関



連して担当の高齢者支援課から、①高齢者の生活支援体制を整備するための中学校区単位の協議体とコーディネーターを平成30年度で1か所、31年度以降に残り5か所に設置する、②一般介護予防事業として、きらめきデイサービス実施団体リーダーへの介護予防体操研修、身近な場所でのサロン開設呼びかけなどを進めるなどの説明があった。

「市民のチカラまつり2017」開催される

来場者2500人を超す

本年度の市民活動紹介イベント「市民のチカラまつり2017」は、11月25日（土）、26日（日）の両日、けやきプラザほかを会場に実施されました。今年度は「展示・体験・発表部門」は同プラザ2階ふれあいホール、10階市民活動ステーション、アビシルベ、アビクオーレ（イトーヨーカドー我孫子南口店の



ビル)などで、「企画部門」は同プラザ7～9階の5会場で開催されました。

今年度の来場者（けやきプラザ1階受付前通過人数）は25日780人、26日1,727人、計2,507人で、アンケート回答による「全体の満足度」は、「満足」46.7%、「まあまあ満足」44.7%、「あまり満足せず」0.4%でした。

【展示・体験・発表部門】 「来訪者は若返る」「集客が課題」

「展示・体験・発表部門」には、本会会員ほか56団体が参加。メイン会場のふれあいホールでは周辺4面でこれらの団体が日頃の活動内容の紹介、市民向け展示、体験呼びかけなどを行い、調理室では子ども食堂、白樺派カレーの食べ比べ、中央の発表ステージでは市内の男声合唱団の練習公開などが行われました。

12月8日に開かれた同部門反省会では、「昨年より客層が若返り、3世代交流ができた」、「2階メイン会場は参加者不十分、周知不足だった」、「一般広報、特にシニア層広報が不十分だった」、「企画はよかったが、集客が課題」などの意見が出ました。

【企画部門】

「企画部門」は、一般市民団体の応募企画が本会会員ほかからの9企画、本会からの参加4企画、計13企画が実施されました。13企画の合計一般参加者は521人。

企画により、かなりのばらつきがありました。

1月18日開かれた同部門反省会では「満席企画もあったが、一般市民の参加が不十分な企画が多く、周知不十分だった」、「企画の周知以前に、市民の市民活動への関心度を高める呼びかけが必要ではないか」などの意見が出ました。

<各企画部門の実施概要報告>

1、「みんなでまちの埋蔵お宝掘り起こそう！」

柏インフォメーションセンターの事務局長を平成13年から約10年間され、まちの賑わい創出伝道師として全国各地を日々飛び回っておられる藤田とし子さんにお話を伺いました。まちひと感動のデザイン研究所の所長でもあります。

今、各地を訪れていると商店街に人が見えない、鉄道の駅前に人がいることも少ないように感じている。8%~10%人口減少している都市が多く、いま4万人程度の小さな町からの依頼を受け一緒に活性化を考える仕事をしている。今日は皆さんと改めて活性化を考えてみたい。

まず地域資源とは何か？自然資源のほか特定の地域に存在する特徴的なもので活用可能なものを地域資源と呼んでいる。柏であればこかぶの生産量が日本一、越谷のクワイやネギがあるが日本一でもこかぶのソフトクリーム等工夫をこらしてもなかなか町おこしにつながらない素材がある。単なる特産品からの脱却が求められている。

今注目されているのは空き家や空き店舗でその景観を丸ごと取り込んで資源と考えていく手法。そのキーワードは①リノベーション②ゲストハウ

ス・シェアオフィス③アート・着地型観光・体験プログラムの3つであると話された。

2人に一人が高齢者で平地が少ないため、大規模農業が出来ない徳島県神山町。その過疎を生かしてサテライトオフィスを誘致し、働き手や起業移住者を呼び込み、創造的過疎のまちづくりをしている事例。

広島県尾道市で、若者が空き家再生プロジェクトを仕掛け、尾道建築塾と銘打って一緒にリフォームを楽しみ、ゲストハウスを作り、そこで様々なチャ

リティーイベントを開催し、資金を捻出している事例。

今治市と尾道市を結ぶ全長70kmのしまなみ海道を訪れるサイクリストに視点を置き、愛車丸ごと宿泊できるホテルや商店街、ビュー

スポットにサイクルスタンドを設置し賑わいを取り戻した事例等スライドをとおして伺いました。

また常磐沿線の箕輪や北千住の簡易宿泊所を活用したゲストハウスや、柏でも共同オフィスの開設等実際に動き出しているとのこと。

また現在関わられている新潟市沼垂テラス商店街の話をお聞きした。そこには自分の故郷を何とか



したいとの思いから廃屋寸前の店舗を銀行から借金して購入。そこに自分の夢を形にしたい古本屋・パン屋・手芸品屋などの若者が集まってきて、入居者自身でリノベーションを施し、ネット販売やクラウドファンディングを使っての資金集めやSNSの活用等、工夫しながら人を呼び込んでいるとのこと。

鳥取県鹿野町では、地域の主婦が空き家を食事の場にしたり、まちづくり協議会で空き家を改装した

活動拠点を整備し、そこで農作物の加工品の開発を手掛けたり、伝統工芸品の技の伝承場所を仕掛けたり、週末だけの手作りまちみせを開いたりしている事例も新鮮でした。

暮らしを楽しむような観光事業や一度は訪れたい、何度でも来たい、住んでみたいと思わせる事業等、人が来るための仕掛けをみんなの知恵と力で実現できれば素晴らしいと痛感しました。元気がもらえた講演会でした。(担当幹事 宇野)

2、「いざという時に役立つロープむすび」

あびこ市民活動ネットワークの29年度「地域活動はじめての一步講座」の「安全安心自助近助を考える講座」の1回目の講座として開催した。地震やまさかの時に役立つロープむすびの講習を受けた。

講師は日本で珍しい「結び文化研究所」の所長で多数のロープに関する本を執筆されている小暮幹雄氏。講師の結びに関するノウハウと結びの歴史などの講義の後、ロープむすびの実技を説明していただいた。

事前申し込みより当日参加の方が多く、準備した机・椅子を増加したほどであったが実技のためには



ちょうどいい人数であった。会場のDVDプレーヤーが不調で、講師の持参したDVDを映すことができず、充分鑑賞していただけなかったのは、残念だった。

実技は時間の制約があったので、一部に「満足に覚えられなかった」「時間が欲しかった」というアンケート結果が出た。2時間とることが出来ればと思われた。

参加していただいた方からは大切な事なので次の講座に期待するとのアンケート回答もあったので、第2回目講座へのつながりが持てると期待したい。(担当幹事 島藤)

3、「コミュニティカフェお悩み相談」

少子高齢化、単身世帯の増加などで、地域社会の繋がりが大切になり、世代を超えたご近所の集いの場「コミュニティカフェ」が各地に広がっている。

あびこ市民活動ネットワークでは、3年前に「地域活動はじめての一步講座」の一環として、コミュニティカフェ基礎講座を開催したが、今回は長寿社会文化協会の常務理事浅川澄一氏から「コミュニティカフェをめぐる最近の動き」をお聞きした後、参加者との意見交換を行った。

コミュニティカフェを始めたいという一般の方の参加が少なかったのは残念だが、参加者からは、よかったところは「コミュニティカフェの現状が共有できた」「ほかのサロンの情報を知ることができて勉強になった」「活動の実態が理解できた」などの意見があった。



この中には、高齢者だけでなく、障がい者さらには子どもむけサロンを開設しているところがあり、多世代向け、多目的カフェへの動きが始まっていることなどを認識していただけたと思う。

市の関係課の参加を得て、市の取り組み、活動実態などを把握できたことはよかったと思う。

行政関係の参加者からは「直接団体の声が聞けてよかった。行政の支援を検討するうえで参考になった」という声があった。

また3年前に基礎講座を受講したあと、実際に立ち上げた人の話も聞くことができ、フォローアップになった。参加団体が多かったので、相互の意見交換やお悩み相談について時間が足りなかった。今後は意見交換にもっと時間を取りたい。

(担当幹事 柳川)

4、「団塊世代の互助を考える集い」

団塊世代が75歳以上になる2025年に向けての医療、介護制度改革に伴って重要な課題になっている「地域包括ケア」。その中で必要性が高まっている住民同士、特に団塊世代同士の「互助」の体制をどう構築してゆくか、という企画趣旨説明に続いて、高齢者生活支援にかかわっている市民団体、地域組織が活動の現状、課題などを説明、続いて市の高齢者支援課、市民活動支援課、教育委員会生涯学習部がこれらの互助体制づくりにかかわる市の施策を説明した。

このうち、市民団体、地域団体の活動紹介では、我孫子市で2番目のNPO法人で、広範な高齢者支援活動を続けてきたデイヘルプがメンバー高齢化などでNPO法人解散を報告するなど、多くの組織が活動の担い手不足を訴え、特に「元気な高齢者」の活動参加に期待する、との呼びかけがあった。

しかし、肝心の団塊世代の一般参加者はほとんどなく、結局既存団体、組織が現状及び課題を語り合う場となりました。これは、一般市民向け広報が不足していたということと同時に、「こういう分野での互助、支え合いが必要だという、市民への呼びかけが不十分なためではないか」という意見もあった。

参加者アンケートでは、回答15人のうち13人が「互助の必要性を感じた」と回答、回答者13人のうち9人が「いろいろな意見が聞けた」、「よい集いだった」と評価したが、時間不足で「突っ込んだ話が聞けなかった」、「話し合いができなかった」などのクレームもあった。

デイヘルプ、NPO 法人解散を表明

当日の団体報告の中で、NPO 法人デイヘルプの山根修理事長は「会員の高齢化と疾病者の増加で、11月開催の臨時総会で、NPO 法人解散を議決、解散手続きに入っています」と報告された。

同団体は、前理事長森谷良三氏が設立、平成11年10月、我孫子市2番目のNPO 法人となっ

た市民団体で、高齢者の生活支援・改善活動を中心に、手すり設置6000本、段差解消4000件などの実績を上げて、各界から表彰され、テレビ、新聞などでも数多く取り上げられた。

最近も庭木伐採、雑草刈り取りほかの活動を続けておられ、山根理事長は「これら依頼者はここ数年で500件に達しており、これらの利用高齢者のために、個人ないし任意団体での活動継続はできないかと考えているが、そのための課題も多い」と語っておられた。
(担当幹事 多田)



29年度地域活動はじめの一步講座

【高齢者の生活支援講座】

3か所で5支援活動の活動内容などを聞く

29年度地域活動はじめの一步講座のうちの高齢者の生活支援講座は、前年度と同様、我孫子市公民館の「市民カレッジ『我孫子を知る』コース」受講者を対象に、昨年10月4日から11月29日までの間に、3会場で4人の高齢者生活支援活動関係者のお話を聞いた。

同コースは、会員NPO法人ふれあい塾あびこが企画・運営を受託している全12回のシリーズ講座で、前半で我孫子市の歴史、我孫子市にかかわる文学の

事績を、後半で我孫子市の現状や課題を学んでいるが、28年度から、「課外講座」として、この「高齢者の生活支援講座」受講していただいている。

今年度の同課外講座の実施概要は次項の通り。

●10月4日午後、手賀沼親水広場水の館3階研修室で、元湖北台社協会会長田中実氏から、湖北台見守り体制について、同地区全11自治会に見守り体制を作った経緯、同地区の見守り体制の特徴、これからの課題などの説明を聞いた。

● 11月1日午前、市内久寺家1丁目にある「よしみちサロン『風』」を訪問、久寺家地区まちづくり協議会会長入野勝見氏ほかから、高齢者のための同サロン開設の経緯、活動内容、課題などの説明を受けた。合わせて、市内の地区別高齢者お助け隊の先鞭「久寺家お助け隊」の設立経緯、活動内容などについての説明を聞いた。（写真）



● 11月29日午前、市民活動ステーション会議室で、つくし野みなみサロン米沢正子代表から、高齢者のための同サロンを開設した動機、現在の活動内容などを聞いた。次いで、居宅介護支援から高齢者生活支援まで、幅広い高齢者のための活動をしているNPO法人わごころの活動内容について、同法人富野浩司理事から、活動内容、活動展開のための課題などについて説明を受けた。（担当幹事 多田）

【まちコンシェルジュⅡ】 あびこのまちにぎわい拠点「布施の古民家見学」

去る11月25日「市民のチカラまつり」「～みんなでまちの埋蔵お宝掘り起こそう！～」の「まちひと感動のデザイン伝道師 藤田とし子さん」講座にて、今年の「まちコンシェルジュ」講座の受講修了者が「まちコンシェルジュ」として講座司会進行や来場者への「おもてなし」等でデビューする機会となりました。

また翌週12月2日には「市民のチカラ」受講者の中で、古民家見学希望者数名を「まちコンシェルジュ」があびバスにて「布施の古民家」へご案内し、古民家ではまちのにぎわい拠点の一つとして市民目線で活動している内容をパソコン画像でご案内しました。

古民家は築350年の歴史があり、土間の玄関から欄間等各座敷の間取りがその歴史を醸し出しています。

敷地内は竹林や季節の農産物が生産され、それらを利用して竹の切り出しから始まる流しそうめん体験、浴衣の着付けをしての書道・お茶、そして布

施弁天や日本庭園での写真撮影会、また食事は釜炊き御飯と有機農法で育てられた野菜をふんだんに使った天ぷらや、ベジタリアンの方も食べられるカレー等。

そこでの交流は我孫子の起業家仲間達と、日本で働いている外国人ビジネスマンやそのご家族、学生さんで、インド・タイ・韓国・フィリピン・北欧の方々です。

古民家での「日本文化体験とおもてなし」は2017年5月からですが、今後は「我孫子文化体験とおもてなし」としてまちの賑わい拠点を掘り起こし、市民参加の「まちコンシェルジュ」活動として推し進めることを提案。それは古民家見学者の20代から80代の方々から、新しい分野の市民活動として賞賛と激励を頂きました。

今後も「まちひと」を掘り起こし、「イチ押しグルメニュー」イラストマップ作製をおし進めながら、ゆるやかに活動ができたらの思いです。

（担当幹事 奥山）



庭園整備実施報告

あびこ市民活動ネットワークは、我孫子市との契約に基づき従前より会員のご協力を得て市役所玄関前庭園の剪定整備作業を行って来ました。

今回は「地域の支え合い」に取り組んでおられる市内のNPO法人ACOPAさんから、市民のための「生きがい就労カレッジ」での庭木剪定講座実習現場として、庭園の利用希望がありました。



11月21日(火) ネットワーク会員に加え講座参加者が協力して剪定整備を行うことができました。

行政からは、庭園がきれいになったことへの感謝をいただき、併せて「支え合い」への市民の取組の理解をしていただいたところです。

(担当幹事 大和)

あびこ市民活動ネットワーク役員会報告(2017.10~12 月度)

■10 月度役員会(10 月 12 日)

1. 会報(43号)の発行(10月15日予定)について、内容を検討し、確定した。
2. 「市民のチカラ」における当 ACNW の企画(下記①~④)および役割分担について検討した。
 - ①11月25日
「みんなでまちの埋蔵お宝を掘り起こそう」
 - ②11月25日「自助・近助を考える講座」
 - ③11月26日「コミュニティカフェなんでも相談室」
 - ④11月26日「団塊世代の互助を考える集い」
3. 我孫子市長との懇談会(12月22日)について検討。
「市長に聞きたいこと」「市に考えてほしいこと」を会員にアンケート票で問うこととした。
4. 新年会員交流会
1月25日13:30~17:00に、あびこ市民プラザホールにて計画する。

■11 月度役員会(11 月 9 日)

1. 1月15日発行予定の会報(第44号)について、記事内容を検討した。
2. 「市民のチカラ」の ACNW 提案の4企画について分担等を確認した。

入退会 なし

編集室から ◆次号は4月15日発行予定です。会報に、催し、求人、他の会員への呼びかけ、などの掲載を希望される場合は、事務局(メール sjxqs255@yahoo.co.jp 電話 080-9293-5269)まで、3月末日までに連絡ください。

◆アドレスご登録の会員には、この会報や、催しのご案内などをインターネットでもお届けしています。アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。

3. 市長との懇談会(12月22日)および新年会員交流会(1月25日)について、内容等を確認した。

■12 月度役員会(12 月 14 日)

1. 「市民のチカラ」に関する下記の ACNW 企画に対する反省を行った。
総じて、集客の点で今後課題を残した。
 - ①11月25日
「みんなでまちの埋蔵お宝を掘り起こそう」
 - ②11月25日「いざという時に役立つロープ結び」
 - ③11月26日「コミュニティカフェお悩み相談」
 - ④11月26日「団塊世代の互助を考える集い」
2. 市民のチカラ実行委員会での反省会について報告がなされた。
3. 市長との懇談会について
下記3項目を主に行うこととした。
 - ①平成30年度予算方針と主な事業
 - ②子どもの学習支援
 - ③高齢者のための新しい総合事業
4. 新年会員交流会について
講演会の同時開催は見合わせ、アトラクションについて検討した。

あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

新年明けましておめでとうございます。本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。

東京ドームファシリティーズがあびこ市民活動ステーションの指定管理者となった4月から、早いもので9ヶ月が経過しました。我孫子市は近隣自治体と比べても市民活動団体の数が多く、活動歴が長くて意識の高い方々も多いということから、これまで続けてきた運営と事業を大きく変えることなくベースに据えることを全体方針としました。そして、中間支援組織の根幹となる相談事業を中心に、情報発信を充実させてステーションの周知を図りたいと考えました。

事業の大きな山として、「市民のチカラまつり」がありました。ステーションは「展示・発表・体験」部門の実行委員会を組織し、6月から11月まで、参加団体や実行委員とともに準備を積み重ねました。運営上の課題は残りしましたが、「親子でにぎわう場にする事」、「シニアの元気や活躍を若い世代に知ってもらうこと」という目標は達成できたように思います。また、団体の方々と目的を共有しつつ、1つの事業を終えることができたことは、何よりうれしいことでした。

平成29年度は残り3ヶ月ですが、団体支援を目的とした下記のような講座を予定しています。専門性の高い講師を招聘しますので、ぜひご参加ください。

あびこ市民活動ステーションのこれから行う講座

■NPO マネージメント講座「人が集まる！！効果的なチラシづくりの極意」

<日時・内容>

1月23日（火）

基礎編 13:00～14:30

作成のための視点や基礎的知識を身に付けます。チラシ作成の技術を持つ方でも、プロから学んだことのない方にはお勧めです。

応用編 14:45～16:45

作成技術やコツを学ぶ講座。ご自分で作成したチラシがあればお持ちください。講師からコメントがもらえます。

<講師> 高山 ベンさん（ベン・デザインオフィス代表）

<会場> 我孫子南近隣センター第1会議室（けやきプラザ8階）

<受講料> 片方で200円、両方で300円

<定員> 各回 15名

■協働事業支援講座

その1 講義と事例紹介「市民活動団体と行政との協働をあらためて考える

—協働が進むと地域はどう変わるのか—

<日時> 2月21日（水）10:00～12:00

<講師> 大下 勝巳さん（NPO法人かわさき創造プロジェクト代表。市民活動の実践者であり、宮前区区長の経験も持つ）

<会場> 我孫子南近隣センター第1会議室（けやきプラザ8階）

<受講料> 無料

<定員> 20名

その2 ワークショップ「若い世代とシニア世代の協働事業企画講座」

<日時> 3月1日（木）13:30～16:30 <会場> 市民プラザ会議室1

*若者とシニアでグループを作り、模擬事業を企画します。

お問い合わせ、お申し込みは

あびこ市民活動ステーション 04-7165-4370 まで